

当事者 部会

部会長 成竹 精一 副部会長 長岡 純人 副部会長 小林 義彦

副部会長 堀内 宗喜

ケアマネ連絡会 相談員 窪田 小百合 相談員 小山 多恵子

長野市障害福祉課担当者 北澤恵子 轟博和 松田俊彦 運営委員会 荒井裕子

1、年間テーマ

障害の理解・啓発、他障害の理解

2、部会等の開催状況

日時		会場	人数 (人)	部会のテーマ	主な内容
月	日				
5	7	市役所	9	執行部会	執行部体制 年間計画
5	20	市役所	夜	「今年度の年間計画」	執行部の承認 年間計画 (交流会 公開講座 フェスタ等)
5	28	障害者福祉センター	昼		
6	10	市役所	夜	「今年度の年間計画」	昼、夜合同交流会の内容検討 ほっこり話
6	18	障害者福祉センター	昼		
7	13	交流会	合同	昼、夜合同部会	防災について 日頃の思いを語ろう
8	5	市役所	夜	権利擁護 出前講座	障害者差別解消法サポートセンター 障害者差別解消法に関する法律について
8	20	障害者福祉センター	昼	障害者差別解消法	
9	9	市役所	夜	ふくしネットフェスタ について	当事者部会の発表について
9	17	障害者福祉センター	昼		
10	6	市役所	合同	ふくしネットフェスタ への参加	
11				中止	
12	9	市役所	夜	ふくしネットフェスタ の振返り	ふくしネットフェスタ振返り 台風 19 号災害について
12	17	障害者福祉センター	昼		
1	6	市役所	夜	今年度の振返り	フェスタへの参加 県障害者共生社会づくり条例について
1	14	障害者福祉センター	昼		
2	3	市役所	夜	今年度の振返り 来年度に向けて	学習を通して 障害理解について 災害について ほっこり話
2	18	障害者福祉センター	昼		

3、機関紙、冊子、アンケート調査・行事など報告書

- ・当事者部会参加のお願い
- ・ふくしネットフェスタ
当事者部会紹介、当事者部会チラシ配布、実行委員会への参加、広報の協力 等
- ・交流会
- ・公開講座「権利擁護センター出前講座」

4、課題について

(1) 主な検討課題

- ・長野市障害者基本計画、障害者差別解消法施行後の動向について
- ・長野県「障がい者共生社会づくり条例」の動向について
- ・障害の理解・啓発、他障害の理解。そのための情報共有（特にほっこり事例）
- ・障害当事者の防災対策
- ・ふくしネットフェスタへの積極的参加と当事者部会の周知と参加呼びかけ
- ・当事者同士の理解と交流をはかるための交流会開催
- ・店プロ主催イベントへの協力

(2) 検討の目的と結果（現状）

- ・「店プロ」協力の一環で参加しようとしていた、6月の駅前バル、権バルのイベントが中止になり、イベント協力ができなかった。
- ・7月にハクナマタタで開催した交流会は、当事者同士の交流で盛り上がり、2時間半の時間も足りないと感じるほどあっという間に過ぎていった。
- ・権利擁護センター出前講座には会員以外の参加者もあり盛況だった。「合理的配慮」に関して参加した当事者の方々が、各々の日常生活のなかで、配慮に欠けた事例ではないかという経験をしているという生の声をあげていただいた。それに対してセンターには、ほとんど相談がないという事実を知り、考えさせられた。
- ・ふくしネットフェスタに関して、本年度から会場を市役所に移したこともあり、来場者があるのか心配されたが、大勢の市民の方が来てくださった。また当事者部会の発表も素晴らしく、部会としても、堀内副部長が実行委員長に就任したこともあり、全面的に協力するという形でバックアップできた。
- ・台風19号の被災の影響で、11月以降の計画を大幅に変更せざるを得なくなってしまい、予定していた公開講座が開けなくなってしまった。
- ・本年度より、毎回部会で報告されている「ほっこり話」について、ふくしネット情報に掲載させていただいている。年々報告の数も増えている。

(3) 引き続き検討が必要とされる課題

- 長野県「障がい者共生社会づくり条例」について、けんり部会主催の報告会や、意見交換会に参加した会員から部会に報告がされたが、これからも注視していきたい。
- 障がい者の防災対策に関して、台風 19 号が襲来した後の 12 月の部会で会員の方から様々な情報や体験談を提供していただいた。避難するかどうかなかなか決断がつかなかった様子や、その中で実際に被災され避難所等に避難された方々が、障害があるうえでの孤独感や不具合を感じている事実を突きつけられ、当事者の防災対策のマニュアル作成など、防災対策についてふくしネット全体で、より具体的に検討して行く必要性を痛感した。
- ふくしネットフェスタに関しては、ふくしネット及び当事者部会を市民の皆様に周知していく手段として無くてはならない事業で、会員から期待する声も挙がっている。昨年度の反省を生かして本年度は実行委員会の体制作りからしっかりとした準備ができ、当部会副部長が実行委員長に就任するなど計画段階からの積極的参加をさらに実現できた。この流れを途絶えさせないようにしていきたい。
- 障害当事者同士の相互理解と情報共有のために、さらに当事者部会を知っていただくために交流会開催は今後とも続けていく必要性を感じる。

(4) 部会の運営体制について

- 本年度の体制のまま活動を続けていきたい。

5、総括（1 年間を振り返って）

- 障害当事者にとって、10月の「台風 19 号災害」は、大変大きな衝撃をもたらした。いまままで危機感を感じていながらも、どこかまだ他人事ととらえがちだったが、現実目の前に起こった事実を目の当たりにして、避難困難者である当事者がどのように自分の身を守るのか、避難後どのように生活を続けていくのか、不利益を被ることのないようにしていくのかなど、喫緊の課題として取り組まなければいけない。そのために当事者部会はどのような活動をすべきか考えていきたい。
- 一人で移動することが困難な障害当事者が、災害時にまず不安に思うことは、どうやって避難所等に逃げるかということである。そのために個人の避難計画が作成されることが決められているのだが、作成されていない現実がある。その理由を確認し作成を促すような公開講座を計画していきたい。
- 数年前から部会の中で「ほっこり話」を報告していただいているが、その話をフェスタのステージ発表や展示等で活用してより多くの人に紹介するような取り組みをしていきたい。
- 部会員を増やすという課題は本年度もなかなか解消できなかった。しかし、アピールした取り組みの成果はあったのではないかと感じる。会議自体は毎回時間が押すほど活発に意見交換が出来ていることは、良い部会運営が出来ているのではないかと感じている。